

① 虐待をなくすために

射水市射北中学校 二年

松井

萌香

「児童虐待七万件超す」という記事を見て  
私はとても悲しい気持ちになりました。全国  
で七万という幼い子供たちが自分の親によっ  
て傷つけられていっているのです。こんなにづく  
て苦しいことはないだろうと思いました。  
虐待をしているほうは自分は何も嫌なこと  
はないから、虐待をしていたことなどすべ  
忘れてしまします。しかし、虐待を受けたは  
うはとが「た針が」に「工」たように深く深  
く傷ついているのです。もし、そんな虐待を  
うけた子が子供と生んで家庭を築いていこう  
としたら過去のことが「ラ」シユバッタして  
自分がされたことと同じことを子供にして  
てしまふかもしれません。そんな二とがあ  
ては虐待が減るどころか、増える一方です。  
現に虐待は二十三年間連続で増え続けてい  
る

の だ そ う で す。

私は子供が一番信頼する二ことがでまる人は親だと思います。実際、私もなせんでいたり

するときに一番頼りにされるのは親です。そん

な親が子供に虐待をしてしまっては子供は誰

の二とも信じられなくなってしまってはまうのではなくて

いからと思います。虐待をうけている人の気持ち

ちを考えるととてもかわいそうに思いました。

自分はなにか悪くないのに理不尽に虐待をう

け、ずっとその二とをひきずつていいくのです。

虐待をうけた人にとてはその過去がけっし

て完全に消えるものではありますせん。どんな

理由があろうと虐待は絶対いけないのです。

しゃかりと子育てができないのに、子供を

生んで虐待をするとはなんとも情けないです。

子供を生んでものは、立派に成長するまでと思いませんでした。無責任すぎるとも思いました。育てる義務があるのです。だから、子育てが

できない人は子供を生むなといふべきでした。虐待をする人には子供を生む権利は

(のり) (のり) (のり) (3 3)

ないと思ひます。虐待をする人は子供を生む  
ない、子供を生んだのなら強い責任をもつて  
最後まで育て、そうしたニシテ虐待で苦し  
む子供が少しでも減つていけばいいと思ひ  
ました。

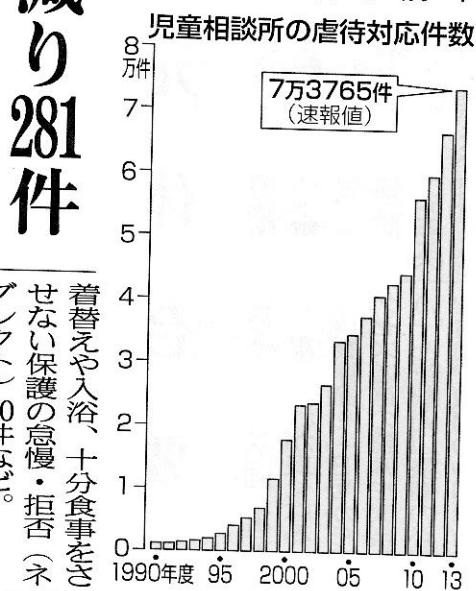
新聞には子供虐待などなくするために、家庭  
を訪問して子供の安否確認をしていく必要があ  
る」と書いてありました。その上での活動も  
今後行なわれていくので、虐待は許されまい  
とばのだと改めて気付いてほしいと思ひまし  
た。子供を守るのは親です。そうしたニシテ  
忘れなじでいてほしくです。

もし身近にそんな子がいたら私達にはな  
してあげればよいのですか。私はあなた  
から雰囲気をつかってあげるニシテが大切だと  
思ひます。虐待で精神的に傷つけられてい  
子の大半が支えとなるのは友達です。優しく  
声をかけた方がいいのですか。私はあなた  
傷をいやしてあげたり一緒にいてあけぬ二と  
いふと思ひます。

厚労省は、昨年8月の通知で虐待を受けた子のきょうだいも心理的虐待の被害児として対応するようにしたことで、母親へのダメスティックバイオレンス(DV)に関する警察からの通告が増えていたのが要因とみている。児童虐待防止法は家庭内のDVを見て子どもが心に傷を負う

ことでも虐待と定義している。全国にある計207児童相談所が、相談や通告を受けて対応した件数を集計した。富山県内の富山・高岡両児童相談所が13年度に対応した児童虐待相談件数は、12年度より2件少ない281件だった。内訳は、暴言などの心理的虐待109件、身体的虐待81件、

全国の児童相談所が2013年度に対応した児童虐待の件数は前年度比10・6%増の7万3765件(速報値)で、過去最多を更新したことが4日、厚生労働省のまとめ分かった。1990年度の集計開始以来、23年連続の増加で初めて7万件を突破した。



## 13年度 23年連続増 過去最多

# 児童虐待7万件超す

談所長が家庭裁判所に親権停止を申し立てた事案は16自治体で23件あった。制度が創設された前年度より4件少なかった。23件のうち保全処分も含めて親権停止が認められた

のは15件。ほかは取り下げが5件、審理中が3件。認められた事例では、白血病の子どもの輸血を両親が拒んだり、施設で暮らす子どもグレクト(ネグレクト)80件など。

お知らせ 本日の朝刊は、創刊130周年企画として「富山の水」をイメージしたデザインでラッピングしています。  
向かへた登録をしたのに、保護者が取り消す手続きをしたりといった医療ネグレクトのほ  
か、父親や同居男性から性的暴力による家庭の密室化や、虐待事件の発生で社会の意識が高ま  
った。被害を受けたケースなどがあ  
る通報が増えていることが挙げ  
る。児童相談所、市町村、警察が連携して、1件ごとに人を出し合い、頻繁に家庭を訪問して子どもの安否確認をしていく必要がある。子どもの安全を最優先に考えた一時保護のほか親に対しても指導に加えて虐待の原因となっている貧困などの問題を解決するために、福祉サービスとつなげる援助も重

NPO法人「シンクキッズ」子ども虐待・性犯罪をなくす会  
代表の後藤啓二弁護士の話  
虐待相談件数が増加している背景には、核家族化と地域社会の崩壊による家庭の密室化や、虐待事件の発生で社会の意識が高ま  
り通報が増えていることが挙げ

られる。児童相談所、市町村、警察が連携して、1件ごとに人を出し合い、頻繁に家庭を訪問して子どもの安否確認をしていく必要がある。子どもの安全を最優先に考えた一時保護のほか親に対しても指導に加えて虐待の原因となっている貧困などの問題を解決するために、福祉サービスとつなげる援助も重